

(30) いぬまき

病害虫	防除法	参考事項
ケブカトラカミキリ	県木であるいぬまきにおいて害虫「ケブカトラカミキリ」の被害が拡大している。被害の多くは、人目につきにくい放任ほ場や庭木・生け垣で発生しており、幼虫による加害は外部から認識できないため、発見が遅れがちである。成虫が発生するときに樹皮を食い破ってできる直径3ミリメートル程度の穴に注意するなど、早期発見を心がけ、予防の措置をとることが重要である。防除適期は成虫であるが、樹体から脱出する期間が短く、樹体外に脱出するとその日のうちに交尾・産卵することなどから、適切な判断に基づく適期防除が重要である。 (予防に関する措置) 1 樹木の健全性の維持に努める。 2 樹木の移動に際しては、被害木が混入しないように十分注意する。 (判断、防除に関する措置) 1 樹皮下の幼虫被害を早期に発見する。 2 薬剤散布の適期は4月から6月の成虫脱出時期である。脱出開始時期は年により変動するので、「けぶかとらなび」により脱出開始時期を推定して散布を始める。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 スミパイン乳剤を樹幹に散布する。 2 トレボンEW又はトレボンMCを散布する。 3 加害された伐倒木を貯木場又は林内空地に配置し、NCSを散布し、直ちにビニール等で密閉しくん蒸する。	○ 樹勢が衰えるとケブカトラカミキリの被害が発生しやすくなる。 ○ スミパイン乳剤は新芽にかかると薬害が発生するおそれがあるので注意する。
モンアシブトゾウムシ	(薬剤防除) 農薬登録情報 1 トレボンEWを散布する。	